

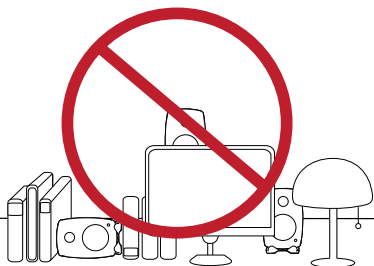
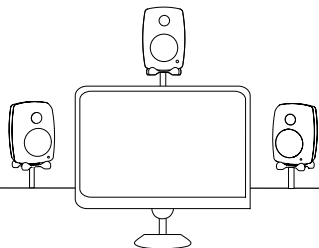
# GENELEC®

# G One

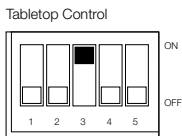
オペレーティングマニュアル

# クイック・セットアップ・ガイド

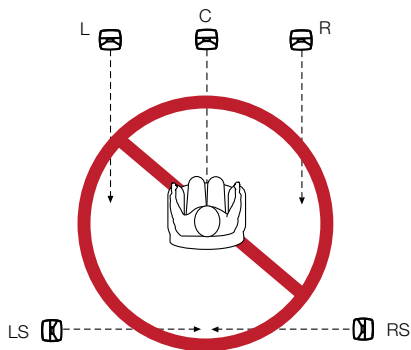
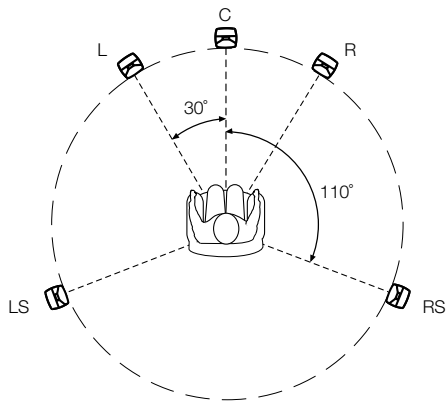
## スピーカーの設置



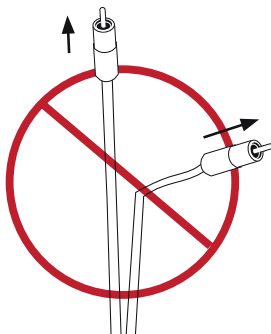
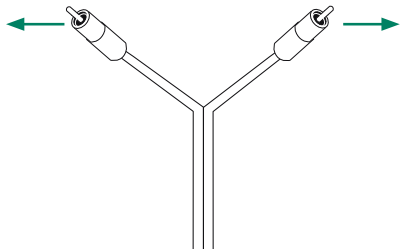
## デスクトップでの設置



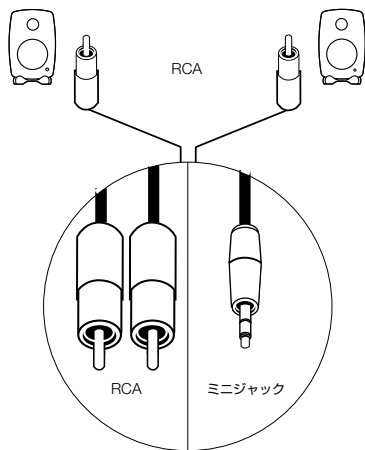
## スピーカーの角度と距離



## RCAケーブルの分割の仕方



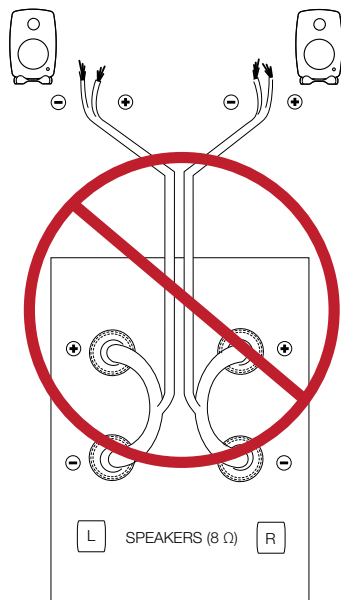
## 接続



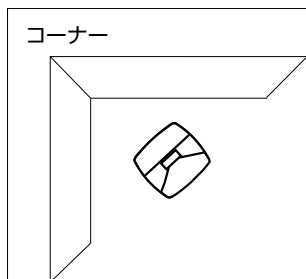
フリ出力

プリアンプ

ライン出力



## トーン・コントロールの使い方



## 概要

Genelec G One は高出力かつ音の色付けが極めて少ない、幅広い帯域幅のサウンドを提供するコンパクトな 2 ウェイ・アクティブ・スピーカーです。

## スピーカーの配置

このスピーカーには、内蔵アンプ・ユニット、オーディオ・ケーブル、電源ケーブル、およびオペレーティングマニュアルが付属しています。パッケージを開封したら、スピーカーを所要のリスニング位置に配置し、リスニング・エリアの中央に向かうように置きます。可能であれば、リスニング位置が部屋の左右中心線上に来るように、またスピーカーが部屋の中心線から同じ距離になるようにシステムを配置してください。

## 接続

接続する前に、信号ソースの電源スイッチが [OFF] に設定されていることを確認してください。オーディオ入力はアンバランス RCA コネクター経由です。リアンプ、コンピューター、サウンド・カード、その他の信号ソースからのラインレベル・オーディオ信号のみ接続できます。パワー・アンプのスピーカー・ターミナルからの高出力信号は絶対に接続しないでください。スピーカーの電源は、全ての接続が完了してから [ON] にしてください。

## ISS™ 自動スタート機能

スピーカーの電源スイッチが [ON] になっている場合、ス

ピーカーの ISS™ (Intelligent Signal Sensing™) 自動スタート機能が有効になっています。再生が終了して一定時間が経過すると、自動で電源が [OFF] になりスタンバイ・モードに入ります。スタンバイ・モード時の電力消費量は通常 0.5W 未満です。再生は、ソースからの入力信号が検出されると自動的に再開されます。

自動電源 [ON] には、わずかな遅延が生じます。ISS™ 機能が不要な場合、背面パネルの [ISS Disable] スイッチを [ON] 位置に設定することで無効に切り替えることができます。この場合、スピーカーの電源の [ON]/[OFF] は背面の電源スイッチで切り替えることができます。

## [Level -10 dB] スイッチ

[LEVEL -10 dB] スイッチは、G One の入力感度を 10 dB 単位で下げます。希望の再生ボリュームに合う設定を選択します。

## トーン・コントロールを設定する

G One の周波数特性は、背面のトーン・コントロール・スイッチを設定することで音響環境に合わせて調整できます。コントロールは [Tabletop] と [Bass] です。表 1 は、さまざまな状況での典型的な設定を示しています。図 2 は、周波数特性へのコントロールの効果を示しています。

### Tabletop

このスイッチは、スピーカーがテーブル上やスピーカーとリスナーの間に反響面がある面上に置かれる場合に [ON] にすることをお勧めします。このような配置では、通常、特定の低周波でブーストが生じます。[Tabletop] 機能は、これを補正するようデザインされています。

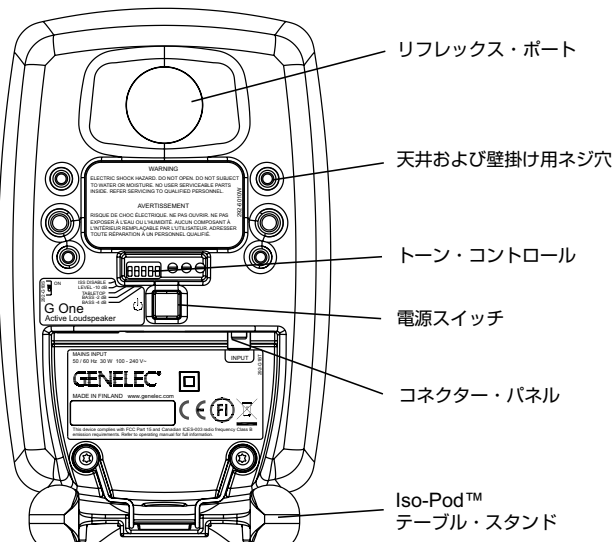


図 1 : G One 背面パネルのコントロール及びコネクターのレイアウト

## Bass

[Bass] コントロールは 2 kHz を下回る低域レスポンスに 3 種類の減衰レベルを提供します。通常、スピーカーが部屋の境界付近に設定されている場合、または、低音がプーミーになったり強くなりすぎるような場合に必要となります。減衰レベルは -2 dB、-4 dB、-6 dB です。-6 dB 減

衰は、両方の [Bass] スイッチを [ON] に設定することで選択できます。

トーン・コントロールは、工場出荷時設定では全て [OFF] 位置に設定されています。この設定は、スピーカーが全ての壁およびその他の固い物体から離れた位置に置かれている場合、フリー空間でフラットな周波数特性を生成します。

スピーカー取付位置	Tabletop	Bass
フラットな無響レスポンス	OFF	OFF
湿度の高い室内で自立	OFF	OFF
反響する室内で自立	OFF	-2 dB
隅	OFF	-6 dB
壁際	OFF	-4 dB
デスク上	ON	-2 dB

表 1 : さまざまな音響環境に対して推奨されるトーン・コントロール設定

調整は、必ず全てのスイッチを [OFF] 位置に設定してから開始してください。設定の様々な組み合わせを体系的に計測または試聴して、最適な音響バランスを探します。

## 取付についての検討事項

### スピーカーを正しく配置する

スピーカーはリスニング位置を向くように配置してください。クロスオーバー周波数周辺のドライバーク間のキャンセレーションの問題を最小限に抑えるため、縦向きで使用することをお勧めします。

### 対称に配置する

スピーカーがリスニング位置から同じ距離で、対称に配置されていることを確認してください。可能であれば、リスニング位置が部屋の左右の中心線上にあり、かつ前後は中心から少しずれた場所となるように配置してください。スピーカーは左右の中央線から同じ距離に、かつ左右間とリスニング位置が同じ距離になるように配置します。

### 反響を最小限に抑える

デスク、キャビネット、コンピューター・モニターなど、スピーカー周辺の物体からの音の反射は、サウンド・イメ

ージへの不要なぼやけや、また周波数特性の問題を生じる原因となります。これは、反響面からスピーカーを離して設置することで最小限に抑えることができます。

### 最小隙間

モニターがキャビネットのような閉鎖された空間や壁内部に埋め込む形で取り付けられる場合、アンプが十分に冷却され、リフレックス・ポートが正しく機能するようにする必要があります。スピーカーの背後、上、両側には、少なくとも 5cm の間隔を空けてください。アンプ周辺の空間では、環境温度が 35 度を超えないよう換気をする、または十分な空間を取る必要があります。

## 取付オプション

G One では、いくつかの取付オプションを提供しています。Iso-Pod™ (Isolation Positioner/Decoupler™) 防振テーブル・スタンドを使用すると、リスナーに向けてスピーカーに角度をつけることができ、スピーカーを垂直方向に正しく配置できます。また、スピーカー底面には、標準的なマイク・スタンドに対応する 3/8 インチ UNC ネジ穴があります。背面には、Omnimount® フラケット用のネジ穴があります。



## 動作環境

これらのスピーカーは室内でのみ使用するようデザインされています。動作温度範囲は 15 ～ 35 度で、相対湿度は 20 ～ 80%（結露なきこと）です。結露を防ぐために、製品を低温環境で保存または輸送した後に温かい部屋に運び入れた際は、30 分～1 時間ほど待ってから箱を開けて主電源に接続してください。

## メンテナンス

アンプ・ユニット内部にオーナー自身で点検修理が可能な部分はありません。保守や修理は Genelec 認定サービスのみ実施可能です。

## 安全性についての検討事項

G One は国際安全基準に準拠するようデザインされていますが、安全な動作を確保し、スピーカーを安全な動作条件下に保つため、以下の警告と注意を順守する必要があります。

- ・ 保守および修理を認定サービス以外の者が実施してはいけません。
- ・ スピーカー・エンクロージャを解体してはいけません。
- ・ スピーカーを水または湿気に曝さないでください。花びんなど液体で満たされた物体をスピーカーの上や付近に置かないでください。
- ・ このスピーカーは 85 dB を上回る音圧レベルを生成できますが、このレベルは聴覚に恒久的な損傷を与える場合があります。
- ・ 十分な冷却を保つため、スピーカーの背後で空気が対流している必要があります。スピーカー周辺の空気の流れを遮らないようにしてください。
- ・ アンプは主電源コードがアンプまたは電源コンセントから取り外されていないければ、AC 電源から完全に接続解除されません。

## FCC 規則への準拠

本製品は、FCC 規則のパート 15 に準拠しています。動作は次の条件に基づきます。

本機器が有害な妨害の原因とならないこと、および本機器が不要な動作の原因となる妨害を含むあらゆる妨害を受信すること。

注：本装置は、テストの結果 FCC 規則のパート 15 に従い、クラス B のデジタル・デバイスの制限を遵守していることが確認されています。これらの制限は、住宅に設置するにあたり有害な妨害に対する適切な保護を提供することを目的としています。本装置は無線周波エネルギーを発生、使用、放射しており、指示に従わずに設置または使用された場合、無線通信への有害な妨害の原因となる場合があります。ただし、特定の場所に設置することによって妨害が発生しないという保証はありません。本装置がラジオやテレビの受信の有害な妨害の原因となる場合は（装置電源をオン・オフすることでご確認いただけます）、以下の対策を 1 つ以上行なって妨害を正すことをおすすめます。

- ・ 受信アンテナの向きまたは場所を変更する。
- ・ 装置と受信機の距離をさらに空ける。
- ・ 受信機が接続されているコンセントとは別のコンセントに装置を接続する。
- ・ 取扱店または経験豊富なラジオ技術者またはテレビ技術者に相談する。

製造者によって明示的に許可されていない変更を行うと、装置を操作する権限が無効になる場合があります。

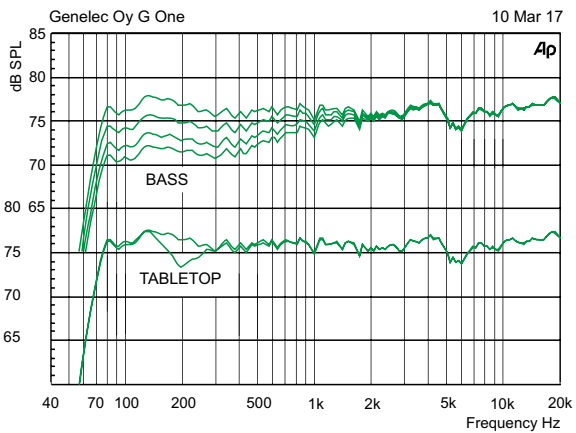


図 2 : 上図のカーブは G One の空間応答への [Tabletop] および [Bass] の各コントロールの影響を示している

## システム仕様

周波数特性 (-6 dB)	67 Hz ~ 25 kHz
最大音圧レベル (Peak)、軸上、半空間、1 m、100 Hz ~ 3 kHz	> 96 dB SPL
最大音圧レベル (RMS)、IEC特性ノイズと同条件 (ドライバー・ユニット保護回路による制限) @ 1 m:	> 91 dB SPL
残留ノイズ・レベル、フリー空間、軸上、@ 1 m (A特性):	< 5 dB
高調波歪み、85 dB SPL、軸上、1 m	70...400 Hz < 3 % >400 Hz < 0.5 %
入力コネクタ - タイプ:	1 x RCAメス
入力インピーダンス:	7 k $\Omega$
クロスオーバー周波数、ウーファー/ツイーター:	3.0 kHz
Tabletopコントロール動作範囲:	-4 dB @ 200 Hz
Bassコントロール動作範囲 (-2 dB単位):	0 ~ -6 dB @ 200 Hz
ベース・アンプ出力 (長時間出力はドライバーユニット保護回路により制限):	25 W
トレブル・アンプ出力 (長時間出力はドライバーユニット保護回路により制限):	25 W
アンプシステム歪み (通常出力 THD+N時):	< 0.08 %
主電源電圧:	100~240 V AC、50~60 Hz
電圧動作範囲:	$\pm$ 10 %
消費電力	
スタンバイ (ISS有効)	<0.5 W
待機	5 W
フル出力	30 W
ベース・ドライバー	76 mm
トレブル・ドライバー	19 mm
質量:	1.7 kg
外寸:	
Iso-Pod™ テーブル・スタンドを含む高さ	195 mm
Iso-Pod™ テーブル・スタンドを含まない高さ	181 mm
幅	121 mm
奥行き	115 mm

## 製品保証について

G One は、材料または製造上の瑕疵および不具合に関して 2 年間保証されています。販売条件および保証条件について詳しくは販売店にお問い合わせください。

[www.genelec.jp/customer-service/](http://www.genelec.jp/customer-service/) よりモニターをご登録ください。これにより 3 年の延長保証（トータル 5 年保証）が受けられます。

株式会社ジェネレックジャパン  
＜本社＞  
107-0052  
東京都港区赤坂二丁目 22 番 21 号

修理お問い合わせ先  
＜ジェネレックサービスセンター＞  
電話番号：050-3786-1236  
平日 10:00～18:00  
（夏季 / 年末年始休業を除く）

修理のご依頼は、お電話または修理依頼フォームがご利用いただけます。修理依頼フォームは、Web サイトのカスタマー サービス内にご用意しております。  
[www.genelec.jp/customer-service/](http://www.genelec.jp/customer-service/)

[www.genelec.jp](http://www.genelec.jp)